

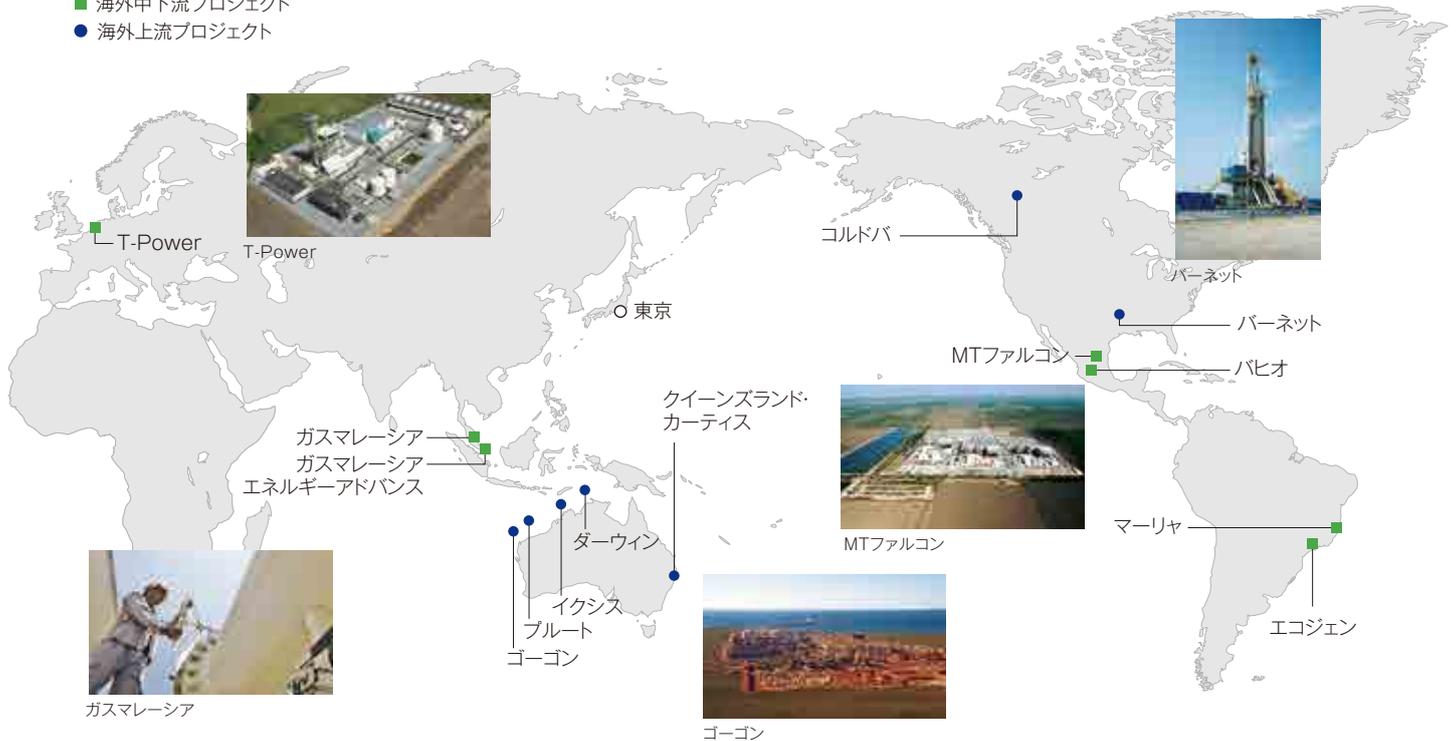
# 3 海外事業

## 海外事業の全体像

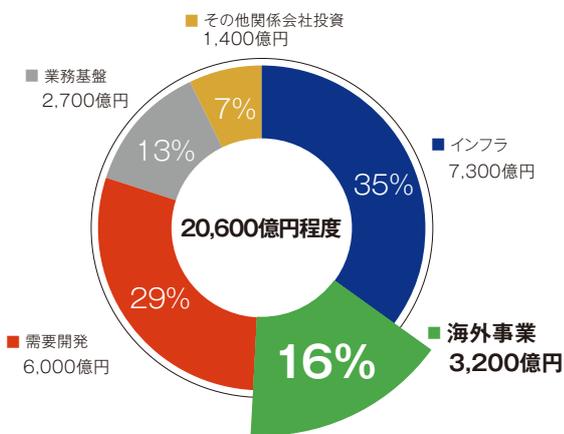
当社グループは、海外事業への取り組みをはじめ、海外におけるガス田開発などの上流事業から、IPP事業・エネルギーサービス・エンジニアリング事業などの中下流事業まで、幅広くビジネスを展開しています。

### ■海外事業の状況

- 海外中下流プロジェクト
- 海外上流プロジェクト



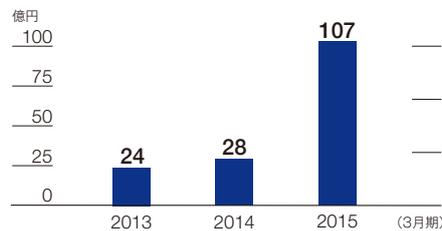
### 投資規模 (2013年3月期~2021年3月期合計)



2013年3月期~2021年3月期の9年間における設備投資・投融資合計20,600億円程度のうち、16%に相当する3,200億円を海外事業に投資する計画です。

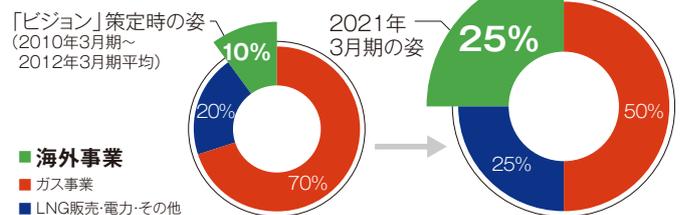
### 利益水準

#### 海外事業営業利益推移



2015年3月期は、ブルートプロジェクトの利益増により、対前期比+79億円の107億円となりました。

#### 連結当期純利益の構成



「チャレンジ2020ビジョン」では、純利益総額を拡大するとともに海外事業の利益構成を連結当期純利益の25%にすることを目指しています。

## 海外拠点機能の拡充

現地における事業パートナーとのアライアンスを通じ、自ら案件組成や事業推進を行うため、海外拠点を新設・増強します。また事業展開する人員を今後3年間で200名規模に増員し、海外拠点機能を拡充します。

### 取り組み事例

#### ①シンガポール、ジャカルタ、バンコク、ハノイ：

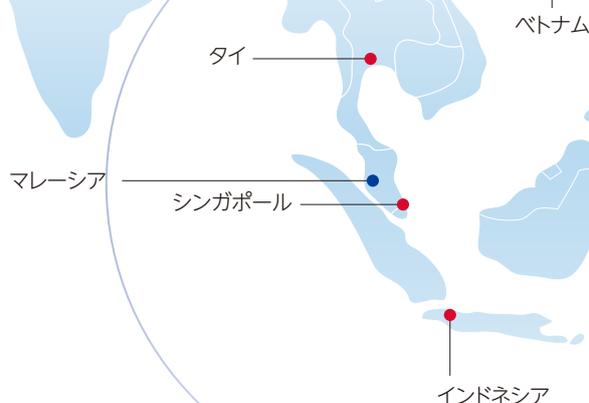
現地ネットワークを構築し、グループ総合力を活かした案件の組成・事業化を推進。

#### ②北米・豪州：

既存事業の運営管理に加え、これまで培った現地ネットワークを活用し、新規案件の開拓を推進。

#### ■東南アジアにおける拠点

- 既存拠点
- 新設拠点



**現地に根をはり、  
当社のノウハウを  
最大限活用しながら、  
東南アジア各国の  
天然ガス利活用を  
推進します。**

東京ガスアジア社  
代表取締役社長 小林 信久



東京ガスアジア社は、東南アジアで事業展開するお客さまへのエネルギーソリューションの提供や現地のエネルギーインフラ構築に貢献し、東京ガスグループ「チャレンジ2020ビジョン」実現に向けた2016年～2018年3月期の主要施策の1つ、「グローバル展開の加速」を具現化するため、2014年12月、シンガポールに設立されました。

東南アジア各国は発展の過程にあり、今後のさらなる経済成長に伴ってエネルギーの需要はますます高まっています。自国内に資源を持つ国も多いものの、旺盛な需要に対応するために

東南アジア域内のLNG輸入量は増加傾向にあり、その利活用は一層進んでいくと考えられます。東京ガスグループは日本国内で培ってきた天然ガス関連技術やエネルギーソリューションのノウハウなどの知見を最大限活用して、東南アジア各国の天然ガス利活用の推進を支援していきます。

こうした機会を的確に捉えていくため、東京ガスグループは2015年4月、ベトナム、インドネシアに駐在員事務所を設置し、今後タイにも開設を予定しています。既設のマレーシアと東京ガスアジア社のあるシンガポールを含め、東南アジアはこの5拠点で新規案件の調査・開拓を進め、東京ガスアジア社はこれら拠点の統括機能を担っていきます。

東南アジアでの事業の進め方には各国によりそれぞれ特徴がありますが、各国の文化・宗教や商慣習を十分に理解すること、つまり現地にしっかりと根付くことが仕事を進める上ではとても大切です。さらには、現地のエネルギー関連企業や行政の方々、豊富な人脈や事業実績のある有力企業の信頼を得て良好な関係を築きながら、その国・地域での事業推進に全力で取り組みたいと思います。

東南アジアは今後も急速に変貌を遂げていくと思われませんが、東京ガスアジア社もこの地域とともに発展の道を行んでいくものと確信しています。

## 上流事業

**目的** 事業投資として新たな収益源を確保することで持続的成長を図るとともに、原料価格の変動に対する当社グループ全体の収益安定化や、上流プロジェクトへの参加者として有益な情報収集が可能です。

プロジェクト名	国	LNG生産能力	参画時期	出資比率	稼働(開発)開始時期
ダーウィン	オーストラリア	300万t/年	2003年	3.07%	2006年1月
ブルート	オーストラリア	430万t/年	2008年	5%	2012年4月
ゴーゴン	オーストラリア	1,560万t/年	2009年	1%	2015年生産開始予定
クイーンズランド・カーティス	オーストラリア	850万t/年	2011年	1.25% (ガス田) 2.5% (第2液化プラント)	2014年12月より 順次稼働開始
コルドバ	カナダ	550万t/年	2011年	3.75%	2009年
イクシス	オーストラリア	840万t/年	2012年	1.575%	2016年生産開始予定
バーネット	米国	200万t/年	2013年	25%	2003年



ダーウィンLNGプロジェクト



バーネット



東京ガス袖ヶ浦LNG基地(千葉県袖ヶ浦市)にて受け入れ

豪州東海岸クイーンズランド・カーティスLNGプロジェクトは、クイーンズランド州のスラット盆地を中心とする石炭層に存在する非在来型天然ガス「コールベッドメタン(CBM)」をカーティス島で液化し、LNGとして出荷する事業です。2014年12月から順次稼働を開始しており、当社は2015年4月に、当プロジェクトからCBMを原料としたLNGの受け入れを開始しました。非在来型天然ガス由来の長期契約に基づくLNGを受け入れは、日本で初めてとなります。

### 今後の戦略

従来のようなLNG調達を伴う上流権益の取得に加え、調達を伴わない北米などのガス田権益の取得や、中小規模LNGプロジェクトへの参画など、参入形態の多様化を図り、さらなる拡大を目指します。事業拡大にあたっては、より一層慎重に案件の精査を徹底

した上で、良好な案件があれば、躊躇することなく取り組んでいきます。また原油価格や為替等の経営環境の変化に対しては、LNGバリューチェーン全体でこれらの変動リスクを抑制・低減していく取り組みを進め、柔軟かつ強靱な事業構造を構築していきます。

## 中下流事業

**目的** エネルギーサービス、エンジニアリングといった当社グループの強みを活用できるとともに、事業投資として安定した利益を確保することができます。

### エネルギーサービス事業

ガスタービン発電システムなどの設備設計、施工、運転維持管理を行い、電気、熱、水、圧縮空気などのユーティリティをワンストップで提供します。

### エンジニアリング事業

天然ガスの取扱技術やガス事業に付随する情報処理技術を活用し、LNG受入基地をはじめとするエネルギーインフラの設計・建設・プロジェクトマネジメント等を行います。

プロジェクト名	国	主な事業内容	参画時期	出資比率
ガスマレーシア	マレーシア	都市ガス供給事業	1992年	14.8%
パピオ	メキシコ	天然ガス発電事業	2004年	49%
マーリヤ	ブラジル	天然ガスパイプライン事業	2005年	15%
MTファルコン	メキシコ	天然ガス発電事業	2010年	30%
Tパワー	ベルギー	天然ガス発電事業	2012年	26.66%
エコジェン	ブラジル	エネルギーサービス事業	2012年	10%
ガスマレーシアエネルギーアドバンス	マレーシア	エネルギーサービス事業	2014年	34%

## 取り組み事例

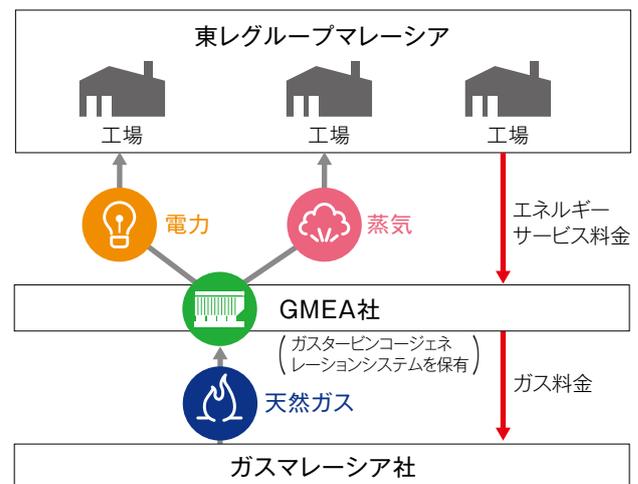
### ガスマレーシアエネルギーアドバンス社 においてエネルギーサービス事業 第一号物件の建設工事に着手

東京ガスエンジニアリングソリューションズ(株)では、マレーシアでのエネルギーサービス事業を目的として、2014年4月に、ガスマレーシア社と合弁会社ガスマレーシアエネルギーアドバンス社(GMEA社)を設立しました。

GMEA社は、東レ(株)のマレーシアにおける出資子会社3社(東レグループマレーシア)と、エネルギーサービスに関する契約(15年間)を締結し、2016年の供給開始を目指して、エネルギープラントの建設に着手しました。

GMEA社は、東レグループマレーシアの敷地内にガスタービンコージェネレーションシステムを設置し、ガスマレーシア社から調達する天然ガスを燃料として、東レグループマレーシアに電力と蒸気を供給します。設計、施工、メンテナンスを一括してGMEA社が担い、東レグループマレーシアからはエネルギーサービス料金を受け取ります。これにより、東レグループマレーシアは、エネルギーコストの削減、省エネルギー、CO<sub>2</sub>排出量の削減を図ることができます。

### 本ビジネスのスキーム図



電力・蒸気を供給するエネルギーコントロールセンターを建設中

## 今後の戦略

当社グループの総合エネルギーに関わる技術・ノウハウを活かし、東南アジア・北米に地域を特定し、集中的に事業を展開していきます。具体的には海外で展開するお客さまへのエネルギーソリューションや、現地のエネルギーインフラ構築などに貢献していきま

す。加えて、国内エネルギー事業の技術・ノウハウを活かし、現地エネルギー会社とのアライアンスなどを通じて、現地におけるバリューチェーン展開にもチャレンジしていきます。